

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500903		
法人名	社会福祉法人 福島幸愛会		
事業所名	グループホーム 陽光園		
所在地	北海道松前郡福島町字三岳160-16		
自己評価作成日	令和8年1月19日	評価結果市町村受理日	令和8年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022_kani=true&JigvogyoCd=0171500903-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2026年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様にとって、ここでの暮らしが一番安心して居心地の良い場所だと思える事を目指しお世話をしています。食事は全て手作りで、季節の食材を取り入れたり、嗜好に合わせて提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福島町は相撲が盛んな町で、日本を代表する名横綱・千代の山と千代の富士を輩出した「横綱の里」として有名である。毎年5月の母の日には女性相撲大会が開催され、多くの相撲ファンが訪れ、町は大いに賑わいを見せている。「グループホーム 陽光園」は、この町の静かな住宅街にある公務員寮を活用し、平成17年に開設している。建物は木造平屋造りで、脱衣所から浴室へは低い段差があるものの、他はバリアフリーとなっており、車椅子の利用者も自由に移動ができる環境が整っている。居間と食堂は別々になっており、その時の気分に合わせて好きな場所でゆったりと寛ぐことができるように工夫している。居間の大型テレビはインターネット回線をつなげ、利用者が好きな配信を大画面に映し出し繰り返し視聴して楽しむことができる。食事は地元の旬の食材を使った料理が並び食卓を彩り豊かにしている。利用者からは三平汁やじゃがいもの塩煮、かぼちゃ入りのお粥などをリクエストがあり、慣れ親しんだ味を楽しんでいる。職員は理念である「ゆったり、のんびり、楽しく」を心に刻み付け、笑顔を決やさずに利用者の穏やかな暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者がその人らしく暮らして行けるよう、事業所独自の理念を作り、職員は周知している。また、ホーム内の見やすい数ヶ所に掲示し、日々心に刻みながら介護している。	開設時より「ゆっくり、のんびり、楽しく、自分らしく」を理念として掲げ、ミーティング時や折に触れて話し合い、日々のケアサービスに反映できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所とは、日々の挨拶をする程度。感染症対策の為、神社のお祭りや高校の学校祭のパレードはホーム内から見学している。町内のフォトサークルが写真を掲示していたが、サークルも高齢化の為、令和7年秋で掲示は終了した。	町内会には加入していないが、毎月役場から広報紙が直接届けられ、地域や町の情報を知ることが出来る。家族から野菜類の差し入れがあったり、大量の清涼飲料の差し入れがあった時は同法人全体で分け合ったりして、日常的に一般的な近所付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方を介護している方や、入所を検討している方の相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和7年7月に発令された「津波警報」に伴い、全利用者避難を実施し、そのことについて報告を兼ね会議を開催した。今年度は1回しか開催出来ていない。	今年度は1回の開催となっている。会議では7月にあった突然の「津波警報」発令により、緊急避難した時の状況を参加者に報告し、また、今回の経験で表出した課題についてしっかりと話し合い、更なる防災対策強化につなげている。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからは、書面開催が不可となったため、一堂に会しての開催は困難な点もあるが、今後は家族や行政、社会福祉協議会、町内会、民生委員などグループホームに関わる様々な立場の方々に呼びかけ、協力を得ながらの開催に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小さな町なので、役場職員ともほとんど顔見知りの関係で、話しやすく常に行き来をしており、運営等についても話し合いをする機会が多い。	役場の担当者とは介護認定更新時や相談事があるたびに気軽に電話したり、直接出向くなど連携を密に図り、研修会の情報交換も頻繁に行われ、協力関係が築かれている。地域包括支援センターとは空室の情報交換を双方向的に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で資料を用いて理解を深め、実際のケアを振り返ったり、その都度身体拘束に当たらないかの確認をしている。防犯上、夜間(19:00~6:00)は鍵をかけているが、日中は開けて出入り自由に行っている。(センサーで出入りがわかるようにしている)	身体拘束廃止検討会を年4回行い、会議録を作成している。外部研修にも年複数回参加して記録も残し、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議、ミーティングで取り上げて勉強したり、実際のケアを振り返り、虐待に当たらないか職員同士で意見交換し、身体的・精神的虐待を排除している。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で取り上げ、職員全員で理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結の際は、分かりやすい言葉を使い説明し、利用者・家族の疑問や不安を解消してから行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見や不満を言える関係作りをしており、言われた事は検討し改善するようにしている。玄関に苦情・意見・要望承りボックスを設置している。	来訪時や電話の際に意見や要望を聞き、表出した意見は全職員で話し合い、運営に反映している。家族からの手紙は職員のモチベーションアップにつながっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ミーティング等で意見や提案を受ける機会を設け、出された意見や提案は出来るだけ運営に反映している。	小さい子どもがいる職員は月に1回、土曜日・日曜日が連休になるように勤務の調整に配慮し、必要に応じて話を聞き、働きやすい職場環境作りをしている。備品購入などは事業所で判断するが、意見や要望の内容によっては施設長と協議をし適切な対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し、必要に応じ相談や助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町内で開催される研修のほか、オンライン研修へ参加させている。その他に内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道GH連絡協議会へ入会しており、以前は研修会や交流会に参加していたが、今年度は参加出来ていない。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目		自己評価		外部評価	
				実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では、話しやすい雰囲気を作り、本人の生活歴・不安なこと・大切にしていること等を出るだけ話していただきながら、理解を深めている。施設見学や必要に応じ体験入所をしてもらうこともある。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に心配なこと、望んでいること等を話していただき、当施設の普段の様子やどんな対応が出来るかをお伝えしている。電話での相談をいつでも受けることもお伝えしている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人や家族の希望や生活状況を聞き、当施設でのサービス内容を伝え、他のサービスが必要であれば提案し、選択していただくよう対応している。				
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で職員が利用者に教えてもらったり、手伝ってもらうことも多く、お互い助け合いながら暮らしている。				
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時には、近況を報告したり、写真を渡している。また、家族が聞いた入所前の話を介護に活かすことも多い。お互いに協力しあい、利用者がより良く過ごせるようにしている。				
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が来訪した時は、気兼ねなく過ごせるような雰囲気作りをしているが、コロナによる面会制限が続く、窓越しに顔を見たり、電話で話したりする程度になっている。	2か月ごとに馴染みの美容師が訪れて、カットやブローをしており、今までの関係を継続している。また、毎月全家族に日頃の暮しぶりや誕生日の食事風景(様子)などを撮った利用者一人ひとりのスナップ写真や手紙を添えたお便りを送っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾んでいる時は見守り、話に参加していない人も輪に入れるよう声掛けし、和やかな時間を過ごせるよう気配りしている。利用者同士の間関係を把握し、トラブルを未然に防ぐようにしている。				

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約や退去された利用者および家族には、お会いすれば挨拶をする程度でそれ以上の交流はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者とはじっくり向き合い、思いや希望を引き出している。普段の生活の中で、1人1人と話す時間を作るようにしており、表情や態度を観察しながら出来るだけ本人の思いに近づけるようにしている。	日々の関わりの中で、何気なく発した言葉や仕種、振る舞い、表情など、その瞬間を大切に、個人記録に残して全職員と家族で共有して、利用者がその人らしく暮らせるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から聞いた生活歴・1日の過ごし方・趣味等をアセスメント表に記入し、職員全員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録し、職員全員が状況を把握している。変化があれば、その都度口頭や連絡ノートを用いて周知出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中止にモニタリングを行い、各職員と日頃の様子を話し合ったり、利用者・家族の希望を出来るだけ取り入れながら作成している。	介護計画の見直しは6か月を目途に行っており、その時期に合わせてモニタリングも行い、カンファレンスで検討して利用者や家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。病気や身体状態の変化があった時は、検討を加えて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、その日の行動や変化、ケア後の気づきを記録し、大きな変化は連絡ノートにも記載し、それを職員全員が確認・共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ、通院・外出等、必要に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和7年秋までは町民有志のフォトサークルの写真を掲示していたが、サークルメンバーの高齢化に伴い廃止となった。他は特に協同はしていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に引き続き診てもらっている。入院や他医院への受診については、かかりつけ医から紹介してもらっている。異変があった時はすぐに連絡し指示を受けている。	本人と家族の希望を優先して決め、今までのかかりつけ医や病院へ受診している。受診の際は家族が同行したり、必要に応じて職員も同行して、医師に普段の様子や変化を伝えている。	

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員がいないので、受診する程ではないが変化が見られ気になる時は、かかりつけ医院の看護師に相談し指示や助言を受けている。その他にも系列の特養看護師へ相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が付き添い、必要な情報を提供している。入院中は病院スタッフから話を聞き、現状の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームでの暮らしが困難と見受けられる場合は、系列の特養への移行もあることを説明し同意を得ている。重度化・終末期についてはその時点で家族を交え相談しているが、看護職員もおらず、町内に入院施設もなく限界を感じることが多い。	契約時に事業所が出来得る最大のケアについて、家族に十分説明している。また、利用者の状態の変化に応じて医師と家族、事業所が話し合い、最善の対応が出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の応急処置法はマニュアルがあり、職員に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員会議で避難方法を確認し、年2回避難訓練を行っている。備蓄は3日分用意している。冬の停電に備え、災害用トイレ、ポータブルストーブや発電機も備えている。	消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施し、うち1回は夜間の火災を想定した訓練を実施している。今後は地域住民と共に避難訓練を実施する考えである。災害や感染症にかかわる業務継続計画(BCP)を策定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの生き立ち、価値観、考え方を考慮し、自尊心やプライバシーを損ねないよう言葉を選び対応している。	話しかける時は口調やトーンに配慮した対応を心がけている。トイレや入浴など羞恥心の伴う介助はプライバシーやプライドを損ねないように十分注意して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食べ物の希望、観たいテレビ、何をしたいのか、どこへ行きたいのか等、あらゆる場面で選択の機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはある程度決まっているが、状況にあわせてそれぞれの意思を尊重し、自分のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは基本的に本人の意思で行ってもらうが、気候や体調に合わせ助言はしている。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの嗜好を把握しながら、好みの物や季節の食材をメニューに取り入れている。誕生日にもメニューを選択し頂いている。足腰の弱い方が多く、座って出来る野菜の下処理や食器拭きを手伝ってもらっている。	献立は地元の旬の食材を使い、利用者の希望を取り入れた季節感溢れる食事を作っている。冬は利用者が食べ慣れた「鱈の三平汁」や「じゃがいもの塩煮にイカの塩辛とバター添え」が人気が高く、懐かしい味を楽しんでいる。誕生日は「いなり寿司」が一番喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、摂取量が少ない時は好みの物や代用品を用意し食べて頂いている。水分量は1日の目安を決め記録し、色々な飲み物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に合わせ、毎食後、声掛け・見守り・介助で行っている。義歯の洗浄、衛生管理も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録簿を基に、個々の排泄パターンを把握し、声を掛けたりトイレへ誘導し、失禁を減らすようにしている。排泄時には羞恥心に配慮し支援している。全居室にポータブルトイレを設置し夜間使用している。	昼間はほとんどの利用者は自立しているが、様子を見ながら早めに声がけをして、失敗ないように支援している。夜間は全員ポータブルトイレを利用しており、立ち上がりが悪かったり、ふらつきがある利用者が多く、家族の了解を得て人感センサーマットを使って素早く対応し、夜間の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るよう繊維質の物・野菜・果物・乳製品をメニューに取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本に午後から行っている。入浴前はバイタルチェックを行い、異常がないことを確認している。また、入浴を拒否する方には、時間を置いたり対応する職員を替えたり、その都度柔軟に対応している。	入浴時はゆったりと湯船に浸かりながら、職員と話しをしたり、得意な歌を唄ってリラックスしている。入浴を拒む時は無理強いせず、利用者の気持ちに配慮した声がけをしている。入浴後は水分補給を兼ねてジュースを用意して、入浴が楽しくなるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝をする時間を作り、その他にも居眠りをしたり、疲れた様子の時も休んで頂いている。夜は居室を好みの明るさにし、大きな音を立てないように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を入れ確認している。変更があった時は連絡ノートを使い把握している。飲み忘れがないようお薬カレンダーを使用し、服用時には名前を読み上げ飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下処理や食器拭き、縫い物や歌等、得意なことで力を発揮出来るよう支援している。		

グループホーム陽光園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望する方が少ないのも現状。コロナによる面会制限も続いており、病院受診以外の外出はほとんどない。	感染症の心配や「ヒゲマ」の出没が頻回にある地域であり、事業所の居室の窓下まで近寄って来ている事から、日常的な散歩や日光浴も思うに任せない状況である。受診の際に家族とドライブや外食を楽しみ気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、家族と相談し小遣い銭を所持している方もいるが、使う機会はほぼない。それぞれの能力に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で掛けられない方が、職員が代行し家族と話しで頂いたり、手紙の返事を書く時は代筆することもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい居間にテーブル・ソファ・観葉植物を置き、落ち着いた空間にしている。また、季節や行事にちなんだ飾り付けをしている。	居間と食堂は独立しており、それぞれの大きな窓から程良く陽が入り、温度や湿度も高齢者に合わせて適切に管理されている。利用者は窓の外に広がる景色を眺めて、人の気配や季節の移ろいを楽しみ、五感刺激の一助としている。その時の気分や好みに合わせて、居間のソファや思い思いの場所でゆったり寛げるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、一休み出来るようにしている。また、居間と食堂が離れていて、それぞれが好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具・写真・思い出の品等を持ち込んで頂き、好みの居室にしてもらっている。観葉植物を置いている方もいる。	居室には大きなクローゼットと洗面台、床頭台、小物収納棚が備え付けられていて、部屋はスッキリと纏められている。持ち込んだ大型テレビは寝ながらも見られる場所に設置し、日常使う衣類の収納ケースも使い勝手の良い位置に置いて、安全な動線を確認しつつ、ゆっくと過ごせる部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる所に手すりを設置し、食事用椅子は高さの調節が出来る物を用意している。居室には表札・トイレや浴室には大きな字で書いた名札を掲示している。		